地域情報（県別）

【京都】「地方でも若手が学べる場を」医師会理事に直談判し実現-堀田祐馬・京都府医師会理事に聞く◆Vol.1

府内北部6病院が参加する勉強会「京都府北部臨床研修ネットワーク」を立ち上げ

2025年12月8日 (月)配信 m3.com地域版

さまざまな若手医師支援の取り組みで全国的にも注目される京都府医師会。その活動をけん引してきた一人が、堀田祐馬理事だ。全国から研修医が受講する勉強会「臨床研修屋根瓦塾KYOTO」や指導医の学び直しに焦点を当てた京都医学会の人気企画「Re-1グランプリ」を運営するほか、情報誌の発行や医師会独自のプラットフォームの運営も支援している。30代で医師会理事となった堀田氏はそもそも、なぜ活動に参加するようになったのか。経緯を聞いた。（2025年11月4日オンラインインタビュー、計3回連載の1回目）

▼第2回はこちら
▼第3回はこちら

堀田祐馬氏（本人提供）

研修医時代に同期は1人「成長を確かめる場が欲しい」

――堀田先生は京都府医師会のメンバーとしてさまざまな活動を推進してきました。まずは、医師会の活動に参加するようになったきっかけをお聞かせください。

それは、私の研修医時代にさかのぼります。私は京都府立医科大学を卒業後、京都府の北部に立地する市立福知山市民病院に研修医として入職しました。同院は地域の中核病院で現在は研修医にとても人気がありますが、2008年当時の同期は1人だけでした。同期が100人ほどいた学生の頃とは状況が大きく変わって戸惑いを感じるとともに、「隣の病院の研修医はどんなふうに学んでいるのだろう」「果たして、私は正しく成長できているのか」と疑問を抱くようになりました。

そんな時、隣の滋賀県では製薬会社のバックアップを受けて全ての臨床研修指定病院が年に1回集まり、発表会を開いていると聞きました。「京都府の北部でも同じような活動ができないか」。そう思って当時の院長だった香川惠造先生（現名誉院長）に相談したところ、「君はまだ研修医だ。製薬会社には頼らず、自分の力だけで実現させなさ

い」と助言をいただきました。とはいえ、イベントを開くには講演していただく先生を招くのにお金がかかりますし、京都府の北部は病院間を移動するだけでも1時間以上かかります。「この場所でどうやって人を集めればいいのか」と思案しました。

初対面の医師会理事に提言「活動を支援してください」

――「地方でも研修医が学び合う環境をつくりたい」思いがあったのですね。

転機となったのは、京都大学で開催された京都府医師会主催の勉強会に参加したことです。「一度聞いてみたい、この先生のこの講義」をテーマに、人気指導医のショートレクチャーを何本も手軽に聞けるというもので、とても良い内容でした。しかし、参加していたのは京都市内の病院の研修医ばかりで、地方から参加していたのはおそらく私だけだったと思います。私は会場まで行くのに2時間半ほどかかったので、率直に「都会の研修医はうらやましいな」と感じました。

そこで私は勉強会の休憩時間に医師会の偉い先生と思われる方たちの元に行き、言いました。「僕らはやる気がありますが、京都市まで来るのは難しいです。地方の研修医は隣の病院が何をしているのか、同期がどうなっているのか、自分が成長できているか分かりづらい。現場で臨床を勉強するのはもちろん重要ですが、オフザジョブも大切だと思います。地方でもこんな勉強会を開きたいので、支援してください」。

率直に思いを伝えたので、正直、「怒られるかな」と思いました。しかし、私の話を聞いてくれたうちの一人、当時は理事だった上田朋宏先生（現副会長）が「君、面白いね」と関心を示してくれたんです。結果、理事の先生方の前でプレゼンテーションする場をいただき、医師会の資金援助を得ることが決まりました。そのお金を活用して2008年の夏に市立福知山市民病院で「京都府北部臨床研修ネットワーク」と題した勉強会を初開催できました。

「皆の困りごとをシステムで解決する」が信条

――初対面の医師会理事に提言するのは、勇気が要ったのではないでしょうか。

私にとっては自然なことでした。私は以前から皆の困りごとの解決に取り組むのが好きで、それはいわば趣味のようなものだと感じています。学生時代は自治会のメンバーとしていろいろな方に講演を頼みに行ったり、学生課の職員から学生に周知してほしいことを相談されたり、部活間の利益相反を折衝したり。

所属していた硬式テニス部では、ある篤志家から多額の資金援助を受けたこともあります。テニス部のコートの移転に伴って3面だったのが2面に縮小した際、コートの狭さから日中に練習できない部員のために夜も練習できるようにしたいと、ナイター設備の寄付を募りました。その際に相談した方が上田先生のような反応を示してくれたのです。自分の損得でなく、皆のために貢献したい気持ちが伝わったのかもしれません。

――資料によると、京都府北部臨床研修ネットワークは年に1、2回の頻度で2020年まで継続されます。

私が主体的に関わったのは初回とその次くらいで、以降は京都府北部にある6つの病院の持ち回りで開催されました。各病院の研修内容や、研修医自身が最近経験した印象的な症例を発表し合うもので、京都府医師会も継続的に資金を援助してくださいました。コロナ禍で2021年から中止しましたが、2026年2月1日に京都府立医科大学附属北部医療センターで再開される予定です。こんなふうに、皆の困りごとに対して「システムをつくって解決すること」を自分の活動のテーマとしています。

同ネットワークの立ち上げを機に京都府医師会とつながりができた私はその後、医師会からお声がかかり、医師会主催の勉強会にスタッフとして参加するようになりました。それが、先に挙げた「一度聞いてみたい、この先生のこの講義」を発展させた「研修医のための研修と交流会」です。しかし、運営に携わってこの勉強会には複数の課題があると感じました。「ここを変えたら、もっと魅力的なものになるのに」と考えた私は、運営の改善に着手しました。

◆堀田 祐馬（ほった・ゆうま）氏

2008年京都府立医科大学卒。市立福知山市民病院に研修医として勤務した後、松下記念病院消化器内科医長を経て2021年に京都第二赤十字病院に入職、2022年から同院消化器内科医長。京都府医師会では2021年から理事を務める。

【取材・文＝医療ライター庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索